〔ベルーガバッチ〕

（園内売店で販売しています。）

正月　園内催し物について

『シーワールド・ふるさと正月'78』

昭和52年もあますところ数日となり新しい年が目の前に来ております。私達の鴨川シーワールドではお正月の楽しい雰囲気を満きつしていただこうと元旦から４日まで次の様な催し物を開催することにしました。

１．もちつき大会

ご来園のお客様に参加していただき、新しい年のスタートにふさわしくキネの音も高らかに搗き上げてもらおうと準備しております。

２．かわいいぬいぐるみと楽しくあそぼう

ベルーガ・ウマ・ロバ・ウサギのぬいぐるみが園内でちびっこといっしょにあそびます。

３．竹馬大会

昔は竹馬を自分で作ってあそんだものですが、今はグラスファイバーで出来たものが市販されているようです。

素朴な竹馬を50脚準備しましたので大いにあそんで下さい。

４．お年玉プレゼント（動物紙ずもう）

期間中入園のお子様にお年玉のプレゼントを行います。

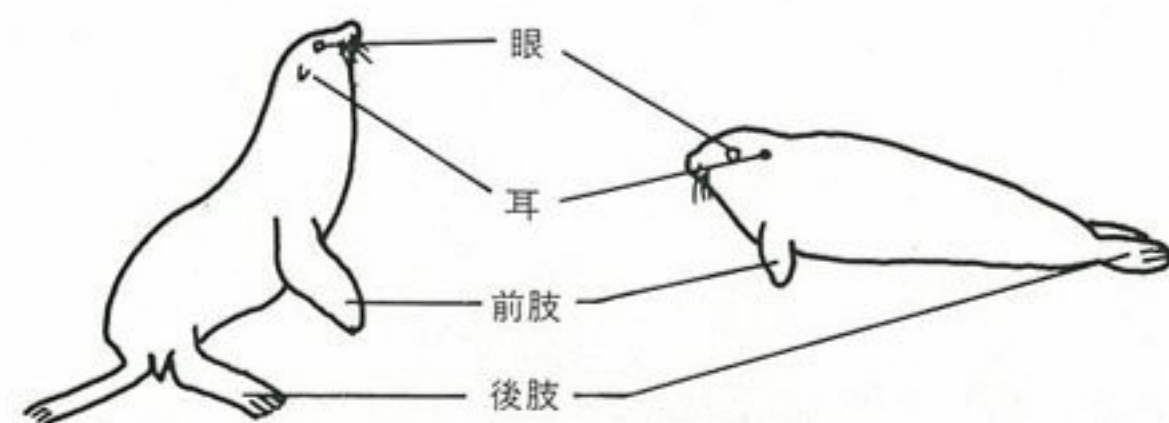
以上正月催し物の紹介をいたしました。ベルーガ君も２年目の正月を迎え益々元気です。皆さん楽しいお正月を鴨川シーワールドでお過し下さい。

表紙説明

本年３月11日に産まれたゴマフアザラシのリリーです。リリーとは百合という意味ですが、その名の示す通りの優雅な女の子に育って貰いたいと願っています。現在体長110cm、体重43kgです。

（大島記）

さかなまた

生物の豆辞典　1977.12－NO.11

●アシカとアザラシの外部形態の違い

●タイセイヨウモンクアザラシの骨格

鰭脚類について

アシカ、アザラシの仲間を分類学上鰭脚類といいます。この動物の仲間は全て水棲哺乳動物ですが、鯨類のように一生を水中で生活するのではなく、陸上と水中の両生活を営みます。その為、体の形態や習性等も水陸両方に適応した機能、様式を有しています。

今回は、その鰭脚類のいくつかの特徴を説明し、更に当館での飼育状況などをお知らせします。

◎形　態

体は水中生活に適した紡錘形をしており、四肢を有しています。体表、特に頭、胴、尾部には短毛が密生していますが、オットセイのように長い粗毛の上毛の下に綿毛（下毛）を有する種類もいます。体色は、アシカの仲間では一様に黒褐色系統で紋様がありませんが、アザラシの仲間の多くは色々な紋様を有し、クラカケアザラシのように、4才頃まで毎年紋様の変化をする種類もいます。また、体毛は年に1度換毛が行なわれ新しく毛が生え変ります。また上顎には数10本の髭を有しています。前後肢には5本の指、爪を有していて、鰭脚類の名が示すように全て鰭状になっていて、水中生活に非常に適応しております。その機能、形態はアシカ類とアザラシ類とでは異なります。水中では、アシカ類は前肢を櫂状に動かし遊泳します。アザラシ類は前肢は小さく、後肢を船の櫓の様に動かして敏速に行動しますが、陸上ではアシカ類のような四肢を使用しての歩行は出来ず、余り陸上生活に適しているとは言えません。尾は短かいかまたは痕跡的にあり、また、外耳は小さくめだちません。

骨格的には、鎖骨がなく肩甲骨は陸上動物に比較し大きく、扇状に広がっています。各四肢の骨は、全体が短かくなっていて、泳ぐ為に必要な強い筋肉を多く付着させるように各骨は平たくなり、表面積を増しています。

◎生　活

成熟年令は5～8才位で、妊娠期間は普通10～12ヶ月で1産1仔です。繁殖期には、成熟した雌雄の集団であるハレムを形成する種類も多くあります。出産後の授乳期間は、カリフォルニアアシカのように1年間近く行なわれる種類もあれば、ゴマフアザラシのように約20日間と短い種類もありますが、一般的にはアザラシ類の方が短いようです。鰭脚類は、水中、陸上の両生活が可能ですが、一年の大半を洄遊生活をし、繁殖期のみ陸上生活をする種類や、周年、島や大陸沿岸に棲息する種類もいます。繁殖が終って洄遊を行なう種類では、最初は親仔中心の群を形成しますが、その後雌雄別、年令別等の色々の群に変化し洄遊生活を行ないます。食性は主として魚類ですが、その他プランクトンからエビ、カニ、イカ、タコ等食べています。寿命は20～30年といわれています。

◎分　布

棲息域は広く、熱帯から寒帯まで全世界に分布しています。例えば、極地にはカニクイアザラシ、ウェッデルアザラシ、温帯には、ゾウアザラシ、カリフォルニアアシカ、そして熱帯にはモンクアザラシ、ガラパゴスアシカ等です。日本近海（主に北海道、東北地方）に棲息していたり、洄遊してくる種類は、トド、オットセイ、ゴマフアザラシ、ゼニガタアザラシ、ワモンアザラシ、クラカケアザラシ、アゴヒゲアザラシの7種類です。また以前、日本海にニッポンアシカという種類が棲息、繁殖していたと伝えられていますが、現在では絶滅してしまったといわれています。日本沿岸で棲息、繁殖する鰭脚類は先に天然記念物に指定され、当館でも飼育しているゼニガタアザラシ一種のみです。

●ニュージーランドオットセイの骨格

●世界の鰭脚類の分布　●世界の鰭脚類の分布

◎鴨川シーワールドの鰭脚類

日本の動物園、水族館で飼育されている鰭脚類は、近年その種類、飼育数共に増えてきましたが、コレクションの対象としてはまだ余り重視されていないようです。その中でもカリフォルニアアシカ、トド、ゴマフアザラシについては比較的飼育歴も古いようですが、特にカリフォルニアアシカはショー動物として有名で、一般にゾウ、キリン等と並んでよく知られた動物の一つです。

分類学的に鰭脚類は、アシカ科（6属12種）、アザラシ科（13属19種）、セイウチ科（1属1種）の三科に分れます。このうち当館で今迄に飼育経験のある動物は、アシカ科5種、アザラシ科4種の計9種類で、日本の動物園、水族館の中では最も飼育種類の多い水族館です。これらの動物については、本誌の“シーワールドのアニマル達”という欄で毎回紹介してきましたので、ここでは簡単に近況を報告するにとどめたいと思います。

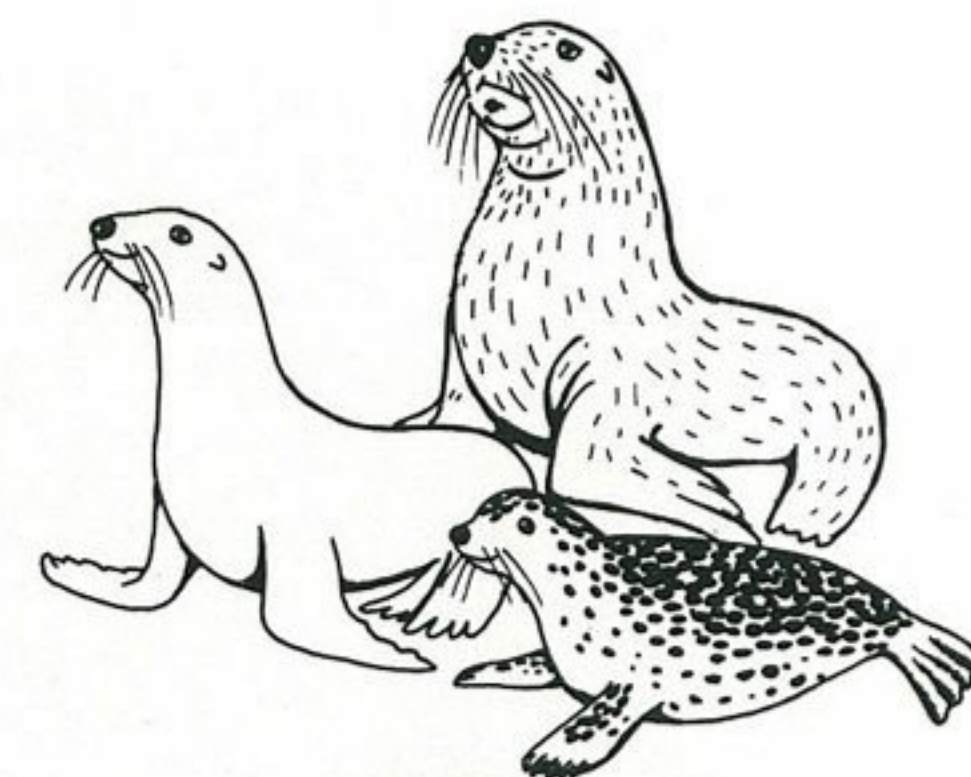
ショーでお馴染みのカリフォルニアアシカは11頭飼育していますが、ショーのメンバーも新旧交代の時期に来ています。今迄ショーを行なっていた動物は殆んどが成熟期に入り、そろそろ繁殖が期待されています。オーストラリアの保護動物の一つであるオーストラリアアシカは、世界でも飼育数が大変少ない貴重動物で、沖縄海洋博での展示終了後当館に来てから約2年を経過し、ようやく環境にも馴れてきたようです。当館で最も大きな動物であるトドは、推定体重600～700kgと成長し、ダイナミックなショーで目下人気急上昇中です。ここ2、3年春になるとシーワールドの話題を独占しているのが、アザラシ類の繁殖です。ゴマフアザラシは、昨年、今年と2年連続して繁殖に成功しており、またゼニガタアザラシは、今春ゴマフアザラシとの間に交雑種を出産し、それらの子供達は現在元気に育っています。ワモンアザラシも雌雄各1頭飼育していますので、近い将来繁殖が期待されます。最後にクラカケアザラシは世界でも飼育例が殆んど無く、その体の紋様の年令による変化、行動の特異性等多くの特徴を有する貴重な動物です。

今後は、これらの動物達の飼育環境の整備充実を更に計り、また今迄に飼育歴のない種類を積極的にコレクションし、皆様にお目にかけたいと考えております。（大島記）

●鴨川シーワールドで今迄に飼育された鰭脚類

種　　類	頭　数
アシカ科	
カリフォルニアアシカ	17
オーストラリアアシカ	3
オタリア	2
ミナミアメリカオットセイ	2
トド	2
アザラシ科	
ゴマフアザラシ	6
ゼニガタアザラシ	3
クラカケアザラシ	2
ワモンアザラシ	3

（昭和52年10月現在）

シーワールドのアニマル達

◎トッピ君の育児記録

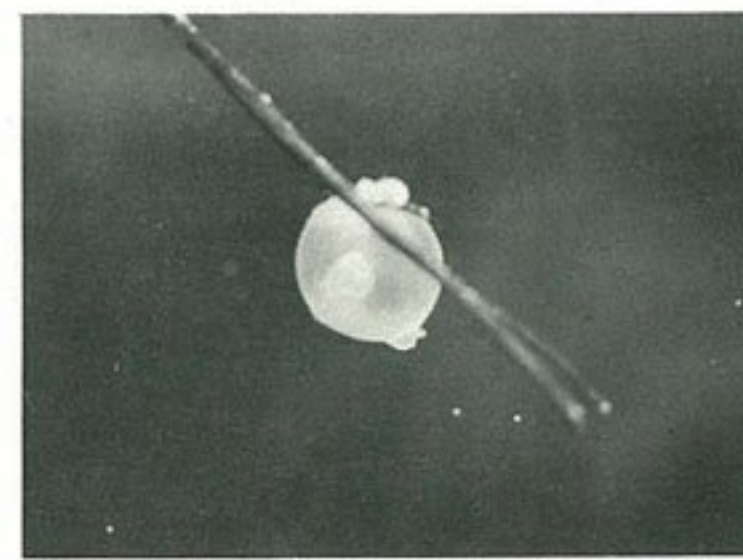
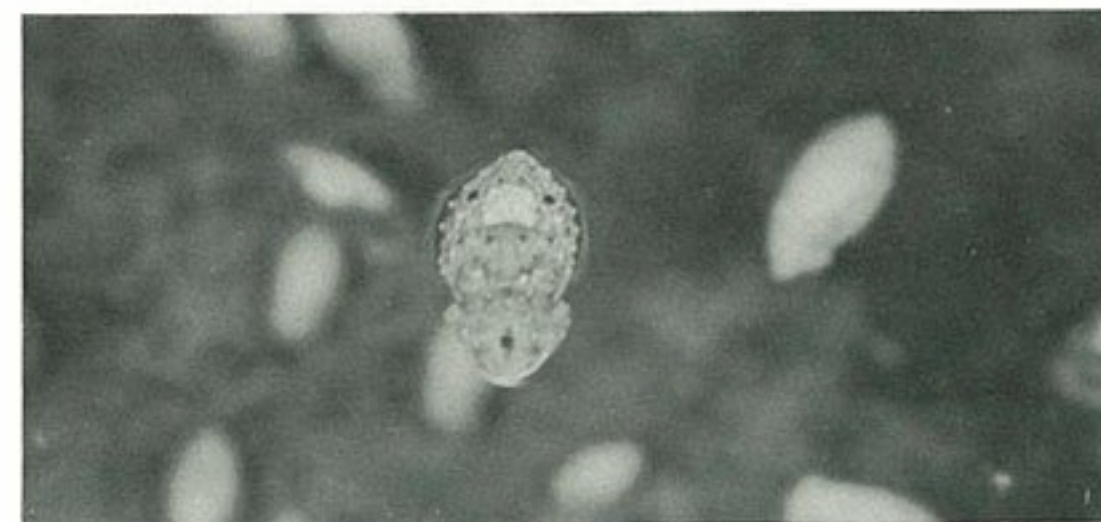
今年の３月16日に、ゼニガタアザラシがゴマフアザラシとの間に世界でも珍しい交雑種を産みました。母親はドン（５才）、父親はアポ（９才）で子供は雄、推定体重８kg、体長85cmでした。子供の名前は一般公募の結果「トッピ」と名付けられました。トッピ君の体の紋様は、背中は母親の特徴である白色の輪があり、胸から腹にかけてはゴマフ紋様があります。出産後、ゴマフアザラシの場合は２週間くらいで、真白いうぶ毛が抜けて親と同じ紋様に変りますが、トッピ君の場合には違いました。ゼニガタアザラシの特徴で、親の胎内でうぶ毛が生え変り、産まれた時には既に親と同じ紋様をしており、また出産後数時間で母親の後を追うように水の中に入り元気に泳ぎ出しました。初めての授乳は出産後約12時間を経てからで、その後は１日に４～６回の授乳をし順調な成長を続けました。しかし、ここでまた一つの問題が起こりました。離乳期はゴマフアザラシの場合は、出産後２～３週間ですが、トッピ君の場合は１ヶ月経ってもなかなかその気配を示しませんでした。しかし２ヶ月半を過ぎた頃よりイワシを少しづつですが食べ始め、しばらくして完全に離乳し、今では好き嫌いなく何でも食べるようになりました。現在では、体長115cm体重38kgと成長し、１日3.5kgのイワシ、シシャモ等を食べています。夏が過ぎた頃より、４日早く産まれたゴマフアザラシのリリーちゃんと一緒に訓練を受け幾つかの芸も覚えました。最近になり、他の先輩アザラシと一緒にショー出演し愛嬌を振りまいています。

ゼニガタアザラシの出産は、私達にとって初めての経験でありましたが、今後はゴマフアザラシとの比較を中心に、注意深く観察を続けながら大切に育てて行きたいと思います。（鈴木記）

トピックス

◎コウイカの誕生

東京湾ではスミイカという名で親しまれているコウイカは、水温が暖かい浦賀水道の海底で冬を過ごし、春の訪れとともに岸辺に近づいてきて海苔濮や海藻に卵を産みつけ、わずか一年という短い生涯をとじます。

当館では産卵のために岸辺に近づいてきたコウイカを毎年採集し、一般公開してきましたが、今年の３月には水槽の中で産卵がみられ、約40日後には、わずか５mmという小さなコウイカの仔供達が次々と誕生しました。体は小さくても、驚いたりすると親と同じように墨を出したり、体の色を変えたりします。仔供達は生まれてから数日後には活きたアミを食べ始めるようになり、食欲は非常に旺盛で、時には自分の体より大きなアミをつかまえ、よく見ないとアミを食べているのか、反対に食べられているのか分からないほどです。

コウイカの成長にあわせて餌もアミからエビやハゼに、そして冷凍エビやイワシに変えながら飼育を続けたところ、ふ化後７ヶ月の11月には外套長が12cmにも成長しました。

水槽で生まれたコウイカの成長は東京湾の場合と大差がないため、来年の４月には水族館での三世誕生が期待されています。（祖一　記）

秋季催し物

ベルーガ公開１周年記念

「ベルーガ」来日以来、１年１ヶ月経過し10月１日より一般公開して満１年を迎えました。

この10月は記念月間として、１日より31日まで、多彩な催し物を行いました。

10月１日は、マリンシアターにて公開記念セレモニーといたしまして、満１年目を迎えた、３頭のベルーガ「ローラ」、「チッチ」、「ポール」、各々のメッセージ等があり、元気な姿をお客様に披露しました。又ベルーガのぬいぐるみも参加し、楽しい幕明けとなりました。

この期間中の、メーンイベントは、10月９日、10日、の連休に行われました。ベルーガぬいぐるみ外６体の動物ぬいぐるみと、全日本鼓笛連盟所属の、バトンガール、鼓笛隊による、鴨川駅から、シーワールドまで1.5kmの、大パレード、引続いて園内のパレードと、２日間にわたり、沿道と園内をにぎわしました。

ぬいぐるみを着た学生アルバイトも、大汗かいての大奮闘でしたが、最後まで頑張っていただき、子供達にも大変好評でした。又園内では、鼓笛隊や、バトンガールのアトラクション等もあり、来園されたお客様も、楽しい一日であったと思います。

オープン７周年記念行事

オープン以来７周年を迎えました当鴨川シーワールドは、昭和45年10月１日よりの入園者が500万人となり、その記念セレモニーを行いました。

10月の９日、10日の連休に500万人目の入園者が出ることを願って、毎日心配しながら、日々の入園数を累計した。長年の経験からか、予想的中し、10月９日4996868名となる、いよいよ10日、あと3132人で500万人目のお客様が誕生する、はたして誰の手にこの幸運が、一喜一憂、朝から入口にて係員のチェック、30分毎の人数報告が来る、「あと100人で500万人です」の報告で、一週間も前から準備したクス玉に係員が着く、セレモニーの準備もOK。

午前11時15分、500万人目誕生、1.5メートルの歓迎クス玉が割られ、クラッカーの音、紙吹雪の中で、信じられないといった表情で、びっくりしている幸運の人は、横須賀市公郷町より、家族４人で来遊された、26才の主婦、河合久子様に決定しました。早速、正面玄関前のセレモニー会場で、一年間の鴨川シーワールド名誉館長の称号、鴨川シーワールドホテルご家族一泊招待、及び記念品等の贈呈を当鴨川シーワールド総支配人より受けて、めでたく500万人目誕生となりました。

又期間中に入園のチビッ子には、めずらしい貝のプレゼント等を行い、ベルーガ公開１周年記念及び、オープン７周年記念月間を無事終了いたしました。